

市長と議長の新春対談

観光交流することとなりました。県もアルザス州オ＝ラン県との経済・観光に関する協力覚書を交わしました。これからお互い刺激し合っ、ものづくりや売り方など、いいものを学び合うことが大事だと思います。そして、協力して世界にアピールしていくことを約束しました。

議長 私も締結にあたり訪問しましたが、コルマルの景観、町並みに感激しました。まるで美術館にいるようでした。このような都市と協定を締結できたことは素晴らしいことです。コルマル市のジルベール・メイエール市長からは「協定5年間で、何をしていくのか具体的に計画を立てましょう」との話をいただきました。「8月までにもう一度会って確認しましょう」と。



「平和でなければ観光は成り立ちません。市では昨年『平和への絆』モニュメントの除幕や平和サミットを行いました。」

市長 地域紛争をどうやってなくすか。世界が手を取り合って、地球をみんなで守っていく、大きな意識改革が起ころうとしています。その中で「平和」は大事なキーワードとなります。観光は平和へのパスポートと言われるとおり、平和でなければ観光客も動きません。

高山は観光地としてこれからも発展してかなければなりません。国際観光都市高山から平和を訴えていくため、シンボルとして「平和の鉦」



▲「平和への絆」モニュメントの除幕(平成26年9月21日)



を設置させていただきました。

― 除幕式の際、地元の子どものためのスピーチがよかったですね。

議長 そうでしたね。あれこそ一番大事なのかなと思いました。また、鉦のデザインがいいですね。祭りの鉦が高山らしさを上手く表現しており、すばらしい鉦の音が響き渡ります。平和を願う鉦として最高です。

市長 平和を守ることで、平和を訴えていくことを市民の皆様にも参加していただきたいと思っています。

合併から10年

― 平成17年2月の市町村合併から10年が経過します。

市長 振り返れば、平成17年2月は大雪で、あの日からあつという間の10年でした。

― 一番懸念していた、広い地域の一体化をどうしていくか、この一番大きな課題は、10年経過した今、市域が一つの心になってきたと感じています。

議長 合併ではお互い傷を分かち合いました。特に旧町村の方々には大変な痛みがありました。旧高山の方々も痛みを分かち合わせ、同じサービスが行き届くように進められました。

― 国体、全国和牛能力共進会、震災支援などいくつかの出来事が市民のひところを後押ししました。

市長 そうです。これらが広い市域



▲合併記念式典(平成17年2月1日)